

今週の為替相場見通し(2018年1月22日)

総括表		注	先週の値動き		今週の予想レンジ
			レンジ	終値	
米ドル	(円)		110.19 ~ 111.48	110.84	110.00 ~ 114.00
ユーロ	(ドル)		1.2165 ~ 1.2323	1.2224	1.2050 ~ 1.2350
(1ユーロ=)	(円)		134.99 ~ 136.31	135.51	133.00 ~ 137.00
英ポンド	(ドル)		1.3728 ~ 1.3945	1.3853	1.3700 ~ 1.4000
(1英ポンド=)	(円)	*	151.94 ~ 154.58	153.76	151.50 ~ 154.50
豪ドル	(ドル)		0.7900 ~ 0.8038	0.7985	0.7850 ~ 0.8150
(1豪ドル=)	(円)	*	87.67 ~ 89.02	88.55	87.00 ~ 90.00

(データ)先週の値動きに関して、注の欄で無印の項目はみずほ銀行、*印の項目はブルームバーグ。

1. 米ドル

為替営業第二チーム 田家 裕介

(1) 今週の予想レンジ: 110.00 ~ 114.00 円

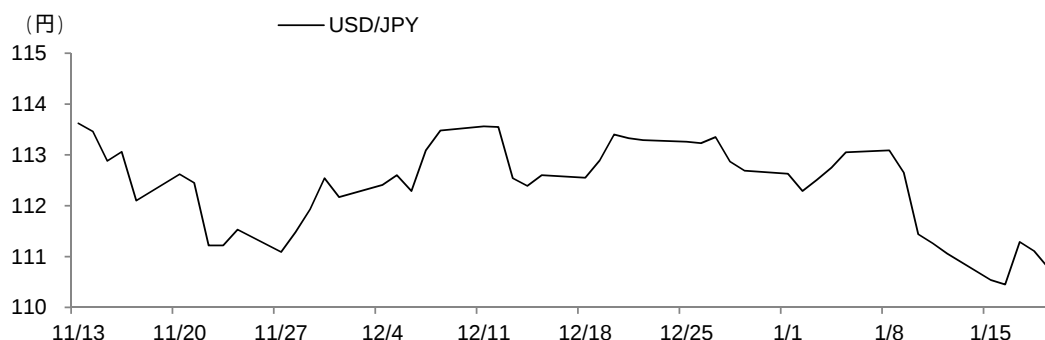
(2) ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週のドル/円相場は上値の重い展開となった。週初15日、111.00円付近で取引を開始したドル/円は9日に日銀が国債購入額を減額したことによるテーパリング観測の高まりが継続したことや独連立政権樹立に向けて協議が進展するとの期待感から円買い、ユーロ買いの中でドル売りの展開となり、約4か月ぶりの安値110.32円まで下落。16日、110.98円まで反発する場面が見られたものの、「移民問題を巡る議論で1月19日以降の米政府閉鎖回避の取り組みが難航」との報道に米政府機関閉鎖への警戒感からドル/円は110.25円まで下落。17日、引き続きドル売り地合いの中で週安値となる110.19円まで続落。しかし「共和党指導部は政府機関閉鎖回避のため民主党不支持の暫定予算法案を推進」とのヘッドラインや米株が史上最高値を更新する中、ドル/円は111円台前半まで急反発。18日、日経平均株価が1991年以来となる24,000円台まで上昇するのを横目にドル/円は週高値となる111.48円まで続伸するも、マコーネル共和党上院議員の発言によって米政府機関閉鎖の警戒感が再度高まったことからドル/円は110.69円まで反落。19日、上院での可決は難航するとの見方が意識されたことや日本政府が月例経済報告で景気判断を上方修正したことから110.49円まで続落。その後は110円台後半での小動きとなり、同水準で越週した。

今週のドル/円は米政府機関が閉鎖されたことで下落するも、中銀イベントによって反発する展開を予想する。まずは米つなぎ予算が失効したことでリスクオフの展開から売られやすい地合いとなろう。こうした中、今週は中銀イベントが2つ予定されている。まず23日の日銀金融政策決定会合に関しては上記のようにテーパリング観測が高まっている状況下、注目度が高まっている印象である。しかし、正副総裁の人事選考が進んでいる中、サブプライズの発表が出る可能性は低いと予想する。黒田日銀総裁の会見ではこれまで同様に物価上昇率2%に向けて粘り強く金融緩和を継続していく方針が示されることで、テーパリング観測の後退からドル/円は底堅い展開となろう。また25日にはECB理事会が予定されている。ユーロは約3年ぶりの高値水準にある上、ECB理事会高官からはユーロ高を懸念する発言が相次いでいることから本会合ではユーロ高への牽制がなされよう。先週のドル安の一因はユーロ高であったことを踏まえると、この巻き戻しが起きることでドル買いの流れになる可能性が高いだろう。今週のドル/円は一時的に下落はするものの、円とユーロに対してドルが相対的に強くなることで上昇する展開を予想する。

(3) 先週までの相場の推移

先週(1/15~1/19)の値動き: 安値 110.19 円 高値 111.48 円 終値 110.84 円



(資料)ブルームバーグ

2. ユーロ

(1) 今週の予想レンジ: 1.2050 ~ 1.2350 133.00 ~ 137.00 円

(2) ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週のユーロ/ドル相場は上下に激しい値動きとなった。週初15日に1.21台後半でオープンしたユーロ/ドルは、米休日で材料不足となる中で前週から続くドル安相場が継続し、2014年12月以来の水準となる1.22台後半まで上昇する展開。16日はメルケル独首相率いるキリスト教民主・社会同盟(CDU・CSU)と社会民主党(SPD)の再連立に関してSPD内の一部の支部で反対意見が根強いとの報道や、ビルロッドガロー仏中銀総裁の「ユーロ上昇によるインフレへの影響を注視すべき」との発言などを手がかりに1.21台後半まで値を下げた。しかしこの水準では押し目買い意欲も強く、その後バイトマン独連銀総裁の「年内の資産買い入れ終了が適切だろう」との発言も相俟って1.22台後半まで値を戻す展開となった。17日は、前日のユーロ買い優勢地合いが続く中で節目となる1.23を上抜けると、ストップオーダーなどを巻き込みながら一時週高値となる1.2323まで急上昇。しかしその後のノボトニーECB理事による「最近のユーロ高は有益ではない」との発言が意識される中、19日に期限を迎える米暫定予算を巡って下院通過について楽観的な報道が伝わるとドル買いが進みユーロ/ドルは1.21台後半まで反落する展開となった。18日、前日からドル買い優勢地合いが続く中でユーロ/ドルは一時週安値となる1.2165まで下落。その後、マコネル米上院議員の発言を背景に米暫定予算を巡る政府機関閉鎖の懸念が再び広がったことや、クーレECB理事の「ユーロ圏は景気拡大期にある」との発言などを背景に1.22台半ばまで値を戻す展開となった。19日、米暫定予算を巡って2月16日までのつなぎ予算が米下院にて可決されるも上院通過の不透明感が引き続き意識される中、一時1.22台後半まで上昇するもクロス円が上値重く推移したこともあり、結局ユーロ/ドルは1.22台前半、ユーロ円は135円台半ばで越週する展開となった。

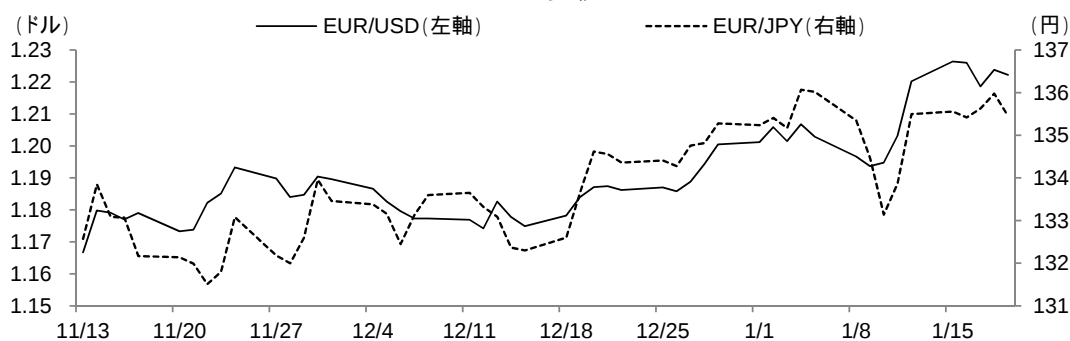
今週のユーロ相場は、一定のレンジ内での上値の重い展開を予想する。先日公表された12月ECB政策理事会の議事要旨にて早期のフォワードガイダンス修正が示唆されたことで早期の出口観測が強まり、足許ではユーロ相場が一時2014年以来の水準まで強含む動きを見せている状況。今週は25日(木)にECB政策理事会を予定されておりその内容に注目が集まる。ガイダンスの修正は経済見通しが発表される3月になるとの見方が大勢となっており、今会合では政策変更はもちろんのこと市場が期待しているような声明文のタカ派修正は無さそう。むしろ足許で急速に進んだユーロ高を牽制するような内容となる可能性の方が高いと個人的には考えている。議事要旨の公表以降、ユーロ相場が急速に上昇する中でECB関係者からはハト派タカ派関係なく過度に強まった早期出口観測を牽制する動きが散見され、タカ派の急先鋒とされるバイトマン独連銀総裁ですら「差し迫った変更のリスクは現時点で低い」と発言しているところを見ると、ユーロ高によるインフレ鈍化に対する警戒感が高そう。かかる状況下、今会合にてガイダンスの修正がされる可能性は非常に低く、どちらかといえばハト派な内容となる中で今週のユーロ相場は上値の重い展開が基本線となるだろう。米暫定予算を巡っては、先週末金曜日に米上院にてつなぎ予算が否決されたことで約4年ぶりに政府機関が閉鎖する展開となっており、リスク回避的な動きが強まればクロス円の軟化が予想され、こちらもユーロ相場の重石となりそう。

(3) 先週までの相場の推移

先週(1/15~1/19)の値動き:

(対ドル) 安値 1.2165 高値 1.2323 終値 1.2224

(対円) 安値 134.99 高値 136.31 終値 135.51



(資料) ブルームバーク

3. 英ポンド

欧州資金部 近藤 敏樹

(1) 今週の予想レンジ: 1.3700 ~ 1.4000 151.50 ~ 154.50 円

(2) ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週の英ポンド相場は、対ドル・ユーロ・円で堅調な推移となった。週初15日対ドルで1.3735レベルにてオープンした英ポンドは、米国が休場で動意に乏しいながらも先々週後半から加速しているドル売りの流れを引き継ぎ底堅く推移。16日に発表された英12月消費者物価指数は昨年6月以来の鈍化となったもののほぼ市場予想通りの結果だったことから、市場の反応は限定的で1.37台後半を中心とした狭いレンジで推移。翌17日も英EU離脱国民投票以降の高値を更新し1.39台を一時回復。今週初0.89台で推移していたユーロ/英ポンドは17日に入るとECB高官からのハト派・ユーロ高牽制発言を受けユーロが売られる展開に英ポンドは対ユーロでじりじり上昇する展開。その後ロンドン引け近くになってダウ等米主要株価3指数が揃って過去最高値を更新、米金利が上昇する展開と歩調を合わせドル売りが加速、ポンドは対ドルで1.39台半ばまで上値を拡大、その後反落。一方、米株・債券市場の流れを受けたドル売りの中でも、ドル円は堅調推移となったことで英ポンドは対円でも152円台半ばから154円台まで急伸。18日の英ポンドは対ドルで1.38台前半を小幅推移していたものの、特段材料も無い中でドルが軟化するとユーロ対比出遅れていた英ポンドは対ドルで1.39手前まで反発。その後ロンドン時間引け間際にかいもう一段ドル売り地合いとなる中、1.39台を回復しその後も底堅い推移が継続。19日(金)発表された英12月小売売上高は市場予想比弱めだったことから下落を開始し、終始上値重い展開のまま越週した。

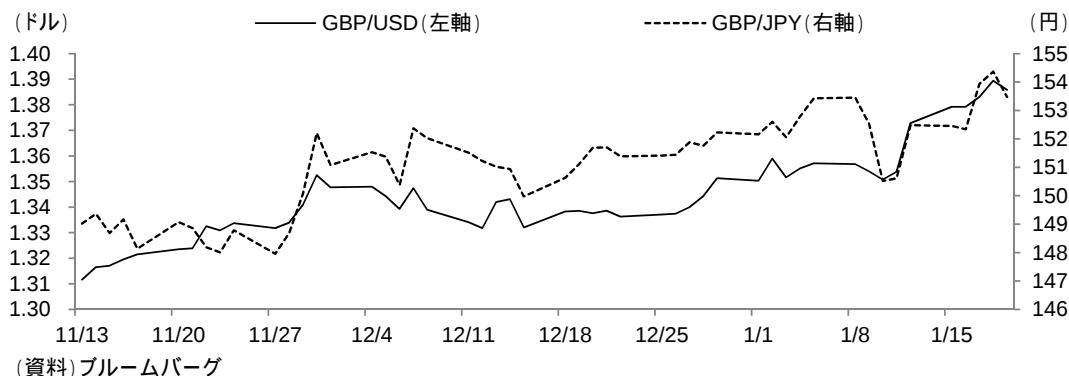
今週の英ポンド相場は、対ドル・ユーロで底堅い展開継続を予想も上値は限定的か。先週の英ポンド相場は一つの節目である英EU離脱国民投票以降の高値を更新した。とはいえ今週英ポンドが明確に1.40を抜けるには材料難であるように感じる。対ユーロでは先々週のECB理事会議事要旨でフォワードガイダンス変更が今夏にも行われる可能性が示唆され期待先行でユーロが大きく買われたものの、25日(木)のECB理事会を控え更にユーロを買い進む向きも限定的と推察されることから下値は限られそうだ。一方対円では日銀の金融政策決定会合が23日(火)あるも大きな値動きとはならないだろう。来週は24日(水)に英9-11月失業率や週平均賃金等雇用関連指標、26日(金)に昨年英9-12月期GDPが発表される。ブレグジットの不透明要因が拭えない中、経済指標で発表直後に上下する展開は想定されるも、大きなトレンドを伴った動きとなるには材料不足だろう。足許の対ドルでの底堅い推移は概ねドル売り要因で説明出来そうだが、先々週のオランダ・スペイン財務相のソフトブレグジット関連発言をサポート材料にしているならば、何ら説得力のある話ではなく当該嵩上げ部分は早晚剥落する可能性も考えておきたい。また、英離脱交渉は報道の割に遅々として進んでおらず交渉のテーブルについてただけで何も進展していない状況は不変。ドル売りが継続するのか及び25日開催のECBに注目が集まることから今週も英ポンド主導の相場展開とはならないだろう。ブレグジット関連のヘッドラインには要注意ながら足許ポジティブ材料への感応度がやや高い地合いが続いており、ネガティブなヘッドラインを受けた急落には注意したい。

(3) 先週までの相場の推移

先週(1/15~1/19)の値動き:

(対ドル) 安値 1.3728 高値 1.3945 終値 1.3853

(対円) 安値 151.94 高値 154.58 終値 153.76



4. 豪ドル

(1) 今週の予想レンジ: 0.7850 ~ 0.8150 87.00 ~ 90.00 円

(2) ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週の豪ドル相場は上昇する展開となった。週初15日に対ドルで0.79台前半、対円では87円台後半でオープン。NY休日で目立った新規材料の無い中、全般的にドル売りが強まる展開となり対ドルで0.79台後半まで上昇した。16日は対ドルでは0.79台での方向感に乏しい推移となったが、対円では米政府機関閉鎖への懸念の高まりからドル/円が下落する動きに連れて88円台前半から87円台後半まで下落する展開となった。17日は豪1月ウエストバック消費者信頼感指数や豪11月住宅ローン承認件数の良好な結果を受けて対ドルで0.7999まで上昇。節目となる水準を手前にして一旦は伸び悩むも、海外時間に入り米株の堅調推移等を背景にリスクオンの流れとなると豪ドル買いが強まり、対ドルで0.80台前半、対円では88円台後半まで上昇した。18日は豪12月失業率が市場予想を下回ると対ドルで0.79台前半まで値を下げる局面がもったものの、中国10~12月期GDPの良好な結果となったこと等から再び豪ドル買い優勢となり0.80台前半を回復した。19日も豪ドル買いの流れが継続し、対ドル・対円でそれぞれ週高値となる一時0.8038・89.02円まで上昇した。その後は週末を前にしてのポジション調整等から水準を下げ、対ドルで0.79台後半、対円では88円台半ばで越週した。

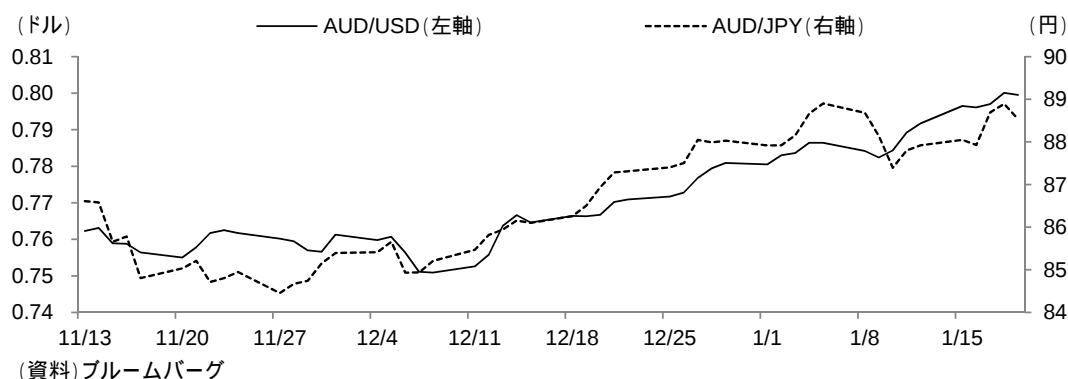
今週の豪ドル相場は底堅い推移を予想する。最近発表された豪州経済指標は良好な結果が多く、足元では豪州準備銀行(RBA)に対する年内利上げ期待が高まっている状況。先週発表された豪12月失業率は市場予想比悪化したものの、就業者数は15か月連続の増加となっており、豪州経済に対する悲観的な見方につながるものとはならなかった。また、先週は豪州経済と結びつきの強い中国においても良好な指標が確認され、豪ドルが買われる要因となった。引き続き豪州経済の先行きに対するポジティブな見方や世界的な株高を背景とした比較的良好なリスクセンチメント、更には底堅い資源価格の推移が豪ドル相場をサポートすることとなりそう。一方、ドル相場について見てみると、足元では軟調推移が続いている。グローバルな金融政策正常化の動きが見られる中、相対的にドルは売られやすい通貨となっている。米政府機関閉鎖の問題についても先行き不透明感が高まっており、全般的なドル売り地合いは今週も継続すると考えられ、その場合は豪ドル相場を押し上げる要因となり得るだろう。以上より、今週の豪ドル相場は底堅い推移をメインシナリオとして予想する。

(3) 先週末までの相場の推移

先週(1/15~1/19)の値動き:

(対ドル) 安値 0.7900 高値 0.8038 終値 0.7985

(対円) 安値 87.67 高値 89.02 終値 88.55



当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。